

## 日本植物園協会ナショナルコレクション申請書

新規申請

更新申請 認定番号 認定期間 年 月 日～ 年 月 日)

(いずれかに)

■申請年月日 2021年 11月 1日

■コレクションのテーマ

小田急山のホテル 庭園のツツジ

■申請団体・申請者名

小田急電鉄株式会社

■申請団体の代表者名(個人での申請の場合は不要)

非公開

■申請団体・申請者の連絡先(住所、電話、メールアドレス)

非公開

■コレクションの所在地(コレクションが分散している場合は主たる所在地)

小田急 山のホテル 庭園

〒250-0522 神奈川県足柄下郡箱根町元箱根 80

■現地審査希望時期

2021年 11月 10日 ～2021年 12月 24日

希望する理由: 来年度の認定を目指しているため、降雪期前の調査を希望する。開花期ではないが、品種は写真等で確認可能。

## ■コレクションのテーマ

小田急山のホテル 庭園のツツジ

## ■コレクションの概要

日本には里山に観賞価値の高い数多くのツツジ(常緑性ツツジ:ツツジ亜属ヤマツツジ節)が自生し、万葉集にもツツジを詠んだ歌があるほど古くから人々の身近な花木として親しまれてきた。鎌倉時代から室町時代には突然変異による園芸品種も栽培され、江戸時代には、庶民の暮らしが豊かになり、余暇の楽しみとして園芸が流行した。中でも、ツツジは 17 世紀の寛文から元禄(1661-1704)にかけ大流行し、300 以上の園芸品種が作出された。

明治時代に入っても日本のツツジ栽培は江戸時代に作出された園芸品種が中心であった。しかし、大正から昭和にかけてクルメツツジやヨーロッパより導入されたアザレアが人気を博し、江戸時代から続く古木と古品種は激減し、江戸時代に作出された品種が大株として継続的に栽培管理されているのは、関東を中心とする歴史的ツツジ園や石川県能登地域の個人庭園等に限定される。

山のホテルの庭園は、三菱財閥 4 代目総帥岩崎小彌太男爵の別邸が 1911 年(明治 44 年)に建築された際に整備された庭園に由来する。1948 年(昭和 23 年)の山のホテル開業以降も継続管理され、現在も 5 月の開花期には大刈り込みのツツジと芦ノ湖・富士山を合わせた景観が有名な花の名所である。

ホテルとして、庭園担当のスタッフが、ツツジの一般的な栽培管理は行ってきたが、2014 年の大雪を経験後、ツツジの維持・再生を目的に、山のホテル庭園プロジェクト「男爵の 100 年ツツジ 100 年先への挑戦」を 2015 年にスタートした。

2016 年から 5 年にわたり、倉重祐二氏(新潟県立植物園園長)を中心に現地での調査を行い、84 品種の多様な品種が良好な生育状態で現存していることが明らかになった。他所ではほとんど栽培がない‘白万葉’(しろまんよう)、『手牡丹’(てぼたん)、『紫塵’(むらさきざい)など 30 もの希少品種の古木も現存し、明治時代後期に流通していた一連の品種が継続的に栽培されている貴重なツツジ植栽群であることが分かった。

これらの園芸品種は、江戸時代後期にツツジの栽培の中心であった「大久保ツツジ園」から導入した日比谷公園(東京都)、館林市つつじが丘公園(群馬県館林市)、および清水公園(千葉県野田市)などのツツジ園等と品種構成が類似していることから、山のホテル庭園のツツジ品種は、導入元が「大久保ツツジ園」からと推測される。

岩崎小彌太男爵が庭園を造園してから 100 年以上が経過し、その個体は樹高 3m 以上の大きさに成長しているものもある。標高約 700m という冷涼な気候のためか病虫害による被害も少なく、良好な状態で個体が残されてきたと考えられる。江戸時代に作出された古品種 30 品種を含む 84 種類の当コレクションは、周囲の景観とともに次世代に残すべき価値あるコレクションである。

## ■申請者が保有するコレクションの種数、品種数、個体数(保有植物リストおよび写真は、別紙「保有植物リスト・写真ファイル作成要領」にしたがい提出)

### ヤマツツジ類

- ・野生種(3 種):ヤマツツジ、アシタカツツジ(環境省絶滅危惧植物 VU)※、オオヤマツツジ※
- ・江戸キリシマ(7 品種):大盃※、(けら性一重)※、(けら性蓑咲き)※、(けら性二重)※、紅霧島、本霧島※、実生霧島※
- ・クルメツツジ(39 品種):今猩々、伊呂波山、浮む瀬、移り香、老いの目覚、重篝火、桂返し、麒麟、

- 虞美人、雲の上、位の紐、胡蝶の舞、左近、東雲、白妙、裾濃の糸、玉手箱、玉の台、玉の縁、千代鶴、千代の曙、常春、名社の関、難波渦、鳴海重、寝屋の扇、白黄錦、美人姿、緋の衣、日の出霧、富士の裾野、筆司、弁財天、松の雪、摩耶夫人、武蔵野、養老、夜桜、竜佐川
- ・オオヤマツツジ系(11 品種):飛鳥川※、飛鳥川の紫花・桃花※、オオヤマツツジの白花※、小紫※、紫鳳殿※、白滝(白錦)※、錦の森※、白鳳殿※、初霜※、鳳凰殿※、紫磨※、
  - ・ハンノウツツジ系(1 品種):関守
  - ・モチツツジ系(1 品種):花車
  - ・リュウキュウ系(15 品種):曙、東白※、大紫、大紫の赤花、京鹿の子※、白妙、白万葉※、白琉球、手牡丹※、南京紫※、峰の松風※、紫琉球※、琉球紋※、琉球紋の紫花※、不明品種(赤紫大輪)※
  - ・サツキ系(6 品種):大盃、大盃の二重、晃山、笑獅子、不明品種(紅紫覆輪)、不明品種(紫大輪)
  - ・その他(1 品種):若鷺※

品種群名は「日本の園芸ツツジ」(誠文堂新光社, 1979)に拠る

※:全国的に栽培が少ない希少種、希少品種

尚、個体数は複数の品種が混植されている玉づくりであるため、品種ごとの本数を数えることは不可能。現在までの調査で総数は、約 3000 株と推測される。

■申請するコレクションのこれまで報告されている総数と申請者が保有する数

- ・野生種:17 種(日本に分布するヤマツツジ節)中 3 種保有
- ・江戸キリシマ:21 品種中 7 品種保有
- ・クルメツツジ:300 品種中 39 品種保有
- ・オオヤマツツジ系:24 品種中 11 品種保有
- ・ハンノウツツジ系:11 品種中 1 品種保有
- ・モチツツジ系:9 品種中 1 品種保有
- ・リュウキュウ系:16 品種中 15 品種保有
- ・サツキ系:1400 品種中 6 品種保有
- ・その他:1 品種保有

江戸時代に作出された古品種 30 品種を含む 84 種類 3,000 株。未同定株がまだ約 200 株あるので、今後も増える可能性がある。

野生種の種数は「日本の野生植物 4」(平凡社, 2017)、サツキ系を除く園芸品種数は「日本の園芸ツツジ」(誠文堂新光社, 1979)、サツキ系は「令和版さつき図鑑 1400 種」(栃の葉書房, 2020)に拠る。

■コレクションの栽培管理状況(所在地が分散している場合は、ここに全てを列記)

今回申請するコレクションはすべて山のホテル庭園に植栽されている。庭園ツツジの手入れは、年間を通して 5 名のホテルの庭園専任スタッフが行っている。最高の大株は 3m 以上の高さがあるので、刈り込みなどは高所作業車を使用するため外部の園芸業者に依頼するが、基本はホテルの庭園担当専任スタッフがすべて行っている。

## ■コレクションの導入記録及びデータベース化の状況

岩崎小彌太別邸時代の作庭、ツツジの導入記録は現在までの調査では確認されていない。

昭和10年には、風景版画家川瀬巴水によるツツジ庭園も描かれているが、現在の庭園と同じように何種類ものツツジの株が植栽されている景色が描かれている。この版画と別邸時代のモノクロ写真(大正時代～昭和初期)のツツジは樹高1m以上ある。その後、1948年(昭和23年)の山のホテル開業時は、別邸の建物がそのままホテルとして使用され、庭園もそのままホテルの庭園として維持された。その後、ホテルの増築や1978年(昭和53年)の本館全面改築などの時は、庭園内でのツツジの移植が行われたようである。また、枯死したツツジに代わって新しい株を植栽したこともあると聞き伝えられているが、正確な記録は残っていない。作庭された1911年から110年が経過しており、作庭当時の植栽にはある程度の大きさの株が用いられたと考えられることや、庭園内の古木は戦後新たに植栽された株と比べると明らかに大きく、幹も太いことから樹齢100年以上だと推定される。

また、株数に関しては、長く約30種3,000株と謳ってきたが、いつからこの数字が出てきたのか定かではない。

2016年から5年にわたり、倉重祐二氏(新潟県立植物園園長)を中心に品種調査を行った。品種調査は、開花しているツツジの花付きの枝を採取し1品種ごとに花や萼、花柄等の形質を調査し、それぞれの花の正面、側面の写真も撮影した。その後、文献等で、品種を同定し、クルマツツジは、久留米市世界つつじセンター所長の岡本章秀氏にも同定を依頼した。

2000年頃から庭園内のツツジに個体識別番号をつけていたが不完全だったので、2016年の品種調査までにこれを完成させ、CADでツツジすべての植栽地図を制作し、2016年から5年にわたる品種調査の結果を植栽台帳としてデータベース化した。データベースは、Excelを基本としたQPTシステムを採用し各個体のデータ(エリア、識別番号、品種名、読み、特徴、亜属、節、園芸系統、調査状況等)と開花時の写真が連動したものとなっている。各個体の写真は、開花時の花の正面、側面、株全体、管理番号札の4点を基本としている。(2021年7月現在約7割完成)

※QPTシステムは、Excelを基本とした膨大な資料を把握し活用する目録システム。

画像とテキストを連動させて、対象資料等(コンテンツ)を整理・活用できる。

## ■コレクションのラベル表記状況(栽培管理用ラベルや展示用サイン・ラベルなど)

管理用には、エリア番号と個体識別番号をアルミ複合版(厚さ3mm 70×30mm)のプレートに打刻印を打ち込み、2mmのカラーワイヤーを付け、各個体の根元に取り付け、植栽管理地図と共に管理している。

来園者に向けては、代表的な品種で、なお且つ園路沿いの個体50株に、A5サイズの展示用樹名板を設置している。樹名板には品種名(漢字表記・ひらがな表記)、学名、科名、特徴の説明文、ホームページの写真を含む花の情報を案内するQRコードを表示している。2021年7月現在18品種50個体。

また、同じく来園者用に、年間手入れ、品種紹介、維持再生プロジェクトに関する説明等、庭園内にそれぞれ案内看板(1000×1500mm)を設置している。

## ■コレクションへの協力団体・協力者(種名の同定、導入など)

### ○品種調査

倉重祐二(新潟県立植物園 園長)  
岡本章秀(久留米市世界つつじセンター センター長)  
小林伸雄(島根大学生物資源科学部 教授)  
真利子三次(一般社団法人日本臯月協会 専務理事)

○年間手入れ

有限会社堂畑造園工務所(刈り込み、消毒など)  
株式会社ランドフローラ(土壌改良など)

○増殖

新潟県立植物園  
有限会社 香花園(新潟県新潟市)

■コレクションの長期保存のための方策と体制(増殖、栽培管理上の工夫、栽培技術者や後継者の育成、危険分散等)

○植栽情報管理

ツツジ庭園を変わらぬ姿で次世代に残すため、2015年度より、山のホテル庭園プロジェクト「男爵の100年ツツジ100年先への挑戦」をホテルとして実施。個体すべてに識別番号をつけ、個体管理地図を作成。個体それぞれの花の写真撮影しその他の情報とともにデータベース化。2019年からは山のホテルの管理スタッフがツツジの品種名を同定できるように、品種群および品種の検索表も品種調査とともに作成した。今後は、開花時に、検索表を使用して同定を進め、未同定の株を減らしていく予定。

○増殖

2016年から本格的に品種調査を行い、貴重な品種の挿し木による個体増殖を図っている。これには、新潟県立植物園と新潟の花弁農家の協力を得て、行っている。2年ほど育てた苗木をホテルで引き取り、圃場で数年育成後、庭園に定植している。

○後継者の育成

コレクションの管理を担当するスタッフはあくまでホテルマンとして入社したスタッフだが、このメインスタッフに関しては、長年人事異動を行わず、長期間庭園担当として、代々引き継いでいる。また、コレクションへの理解促進のため毎年開花後のお礼肥作業はホテルや本社スタッフ総出で行う。特に、新入社員はこれに全員参加して、ツツジへの愛着醸成に役立っている。

■コレクションの公開の現状と今後の方針、これまでの広報・利用実績(研究等を含む)

○公開の現状

毎年5月開花時には、ホテル宿泊者だけでなく、一般に庭園を開放している。これは、昭和40年頃から行われている。近年は、開花時にツツジの歴史や庭園のツツジについてなど、倉重祐二氏による講演会も開催している。

○多種多様なツツジの品種を利用して、これまでにツツジの開花予想方法の検討(中澤ら, 2019)、品種構成からみたツツジの歴史的な庭園の変遷(小林ら, 2019)の研究が行われ、また‘大紫’の全国での変異の遺伝的な調査に協力している。

中澤潤也・大橋明雄・倉重祐二. 2019. 積算温度におけるツツジ属の開花予想法の検討. 植物園協会誌 54:107-108.

小林伸雄・倉重祐二・梅本美奈子・若林芳樹・中澤潤也・大橋明雄. 2019. 関東の歴史的ツツジ園における品種構成について-日比谷公園つつじ山・箱根山のホテルツツジ園. 園芸学会. 園学研 18 別 2:138.

○これまでの広報

ツツジの開花期は、1990 年から、テレビ取材を誘致したり、ホテル独自に動画やドローン撮影を行い、テレビ局に配信したりして、さまざまな番組で紹介されてきた。また、ブログは 2014 年から、インスタグラムは 2018 年から開始し、年間を通して庭園の手入れなどの情報を週 2 回くらいの頻度で配信して、庭園ファン作りをしている。

○今後の方針

近年の調査で、貴重な品種が数多く存在することが判明したので、これらの品種を含め庭園の景観を維持していくことが重要と考えている。また、ホテルの庭園なので、ホテルに来館されるお客様へのおもてなしのひとつとしても大切な財産ととらえている。

毎年 5 月の開花時には今後も「つつじ・しゃくなげフェア」を開催し、一般開放し、広く PR していく予定。

※認定されたナショナルコレクションの情報(提出いただいた申請書や写真を含め、非公開の文字情報および個人情報を除く全てが対象)は、当協会のナショナルコレクション事業(ホームページ、啓発書類、報道資料シンポジウムやポスター等)で、認定者に事前通知なく使用できるものとします。また、本事業以外での使用(第三者への情報の公開や写真提供等)については、事前に申請者との協議によって決定することとします。以上の使用範囲に同意の上、申請をお願いします。